

集結力戦の億十アジア



下に邱侯田前舍宿 下殿シコヤタイワンワと理總條東



下に邱氏山藤舍宿 領統大ルレウラと理總條東



下に邱官臣大理總 班首スーボと理總條東

大東亞會議開



下に邱別氏崎岩舍宿 長院王と理總條東



下に邱氏部服舍宿 理總務國張と理總條東



下に邱氏井櫻舍宿 理總ウモ・ーバと理總條東

アジアは一つ仲よく力を合せて

張景惠閣下

明治五年奉天省安撫使に生ず。奉天講堂卒業。一和七年滿洲國と同時に参議府議長に就任。更に東省特別官長官兼軍政部長に任ぜらる。帝政實施と共に軍政部大臣兼空軍部議長となる。昭和十年國民政府總理任冠の後、大命を拜して國務總理大臣に就任。第一、陸軍陸軍上將で、各代表中の最年長者である。

注 精衛閣下

明治十七年廣東省萬縣に生ず。名は光敏、精衛は號である。十九歳の時、その英才を認められて廣東省政府から留學を命ぜられ、わが法政大學に學ぶ。舊國民政府時代は行政院議長兼外交部長、現在は國民政府主席兼行政院議長、軍事委員會委員長、中央黨部總裁、中央政治會議主席を兼ねてゐる。

右から張國務總理、青木大東亞大臣、汪行政院院長



ワンウイタヤコン殿下

明治二十四年生。佛國に學び、大正六年在佛公使館一等書記官、昭和四年外務次官、同八年外務省顧問、同九年總理大臣顧問に任ぜられ、現在海關顧問を兼ねてゐる。この間、各種國際會議に出席し、殊に昭和十六年東京平和會議には首席を兼ねて東朝、本年十月十五日、一等皇族に昇格す。本邦第一等旭日章を有してゐる。

ホセ・ベラウレル閣下

パナマ、コロンビアに生ず。年輪五十二歳。大正四年フィリピン大學を卒業。同年海軍少佐に合格、精進士を卒業す。最高法院評事、最高法院主任判事を歴任、昭和十七年フィリピン政府成立と共に司法長官に任ぜられ、後内務長官に轉ず。その後、フィリピン獨立準備委員會委員長、次いで獨立と共に大統領に就任す。

右からワンウイタヤコン殿下、來橋大使、ラウレル大統領



ウィーバー・モウ閣下

明治二十六年マウビンに生ず。ケンブリッジ大學、ボルドウ大學に學び、大學より哲學博士の學位をうく。ビルマ離國後、精進士を卒業。昭和九年文部長官、同十二年印緬分府後最初の内閣を組織して總理大臣、同十四年ビルマ自由聯盟を結成す。ビルマ行政府成立と共に行政府長官、現在は國家代表並びに内閣總理大臣。

スバス・チャンドラ・ボース閣下

明治三十年カッタ近傍に生ず。カッタ大塚及びケンブリッジ大學卒業。大正十年インド國民會議派に加入後、反英獨立の半生を貫く。その間、カッタ市會議長、同市長等にも選出され、殊に昭和十三年、同十四年には再度にわたつてインド國民會議派議長に就任、現在自由印度政府首相、インド國民軍最高指揮官。

右から重光外務大臣、バー・モウ總理大臣、ボース首班

